

第2回 JATS-NEXT Annual Conference 開催報告

2025年8月11日に大阪ナレッジキャピタルカンファレンスセンター8階のフロア貸し切りにて第2回 JATS-NEXT Annual Conference を開催した。朝8時半の開会式を皮切りに、第1会場、第2会場に分かれセッションが開始された。第1回に続き第2回も JATS-NEXTらしい、できるだけ領域にこだわらない、同世代が面白いと思うセッションを検討した。以下にセッション一覧を提示する。

- ・領域横断で挑む高難度手術～再～
- ・手術手技のこだわり
- ・Nightmare cases
- ・タイパ・コスバ重視時代における手術勉強・トレーニング法
- ・胸部外科医のキャリアを考える～これからの働き方と多様性～
- ・切る技術から、聴く技術へ～外科医の未来に必要なコーチングとは～
- ・JATS-NEXT 世代の AI 活用法
- ・#研究してみたー若手胸部外科医のリアル
- ・外科医×企業・イノベーション：JATS-NEXT 世代が作る新たな挑戦
- ・働き方改革できていますか？
- ・ポスター発表 手術記録～伝えられる記録の工夫～

若手～中堅外科医を中心として領域別、領域横断セッションの熱い議論が交わされた。印象的であったのは、JATS-NEXT 世代が主な参加者であるため普段学会では議論されにくい内容が多く議題に上がったことである。大きな会では公言されないが実際に話したいこと、知ってほしいことを伝えられる場であり、これにより参加者がインスピレーションを受けモチベーションを挙げられると感じた。特にリーダーシップ教育や国内留学に関して国際的な事例を挙げられ、学会で率先して行ってほしいと提案された演題もあり、本学会の意義を感じた。

また非会員の招請者は金銭的にも多くは呼び出すことはできなかったが、JATS-NEXT 世代が知りたいことを教授いただける方を効率的に呼び出すことができた。胸部外科医のキャリアを考えるセッションでは心臓血管外科医としてキャリアを積まれた後、先の参議院選に立候補された平まさき先生にご登壇いただき、国政に出馬する原動力となった外科医としての葛藤についてお話いただき感銘をうけた。また外科医の未来に必要なコーチングを考えるセッションでは、大分大学の上田貴威先生より、JATS-NEXT 世代が直面している教育、指導の悩みを解消できるご講演をいただいた。AI 活用法についてのセッションでは近畿大学の大塚篤司先生にご講演いただき、さらに座長として一つ一つプロフェッショナルなコメントをいただくことができ、これからの外科診療に新たな道筋が見えた。

ゲストスピーカーとしてイグノーベル賞を受賞された武部貴則先生（大阪大学教授、東京科学大学教授、シンシナティ小児病院准教授、横浜市立大学特別教授）にご講演をいただいた。研究テーマをお話いただいた後、研究に対するモチベーション、アイディアの invention と innovation について説明いただき、academic surgeon を目指す若手、中堅には刺激的であった。

胸部外科医としてのアウトプットを強化すべく、スピーチコンテストが開催された。去年に続き、今年も多種多様な主張が繰り広げられ、特に入局前後の若手が数人エントリーしていたことが印象的であった。投票により順位が決められ、優勝は植野恭平先生『将棋の格言に学ぶ心臓手術』であった。

参加者：113名（会員96名、非会員10名、初期研修医1名、学生1名、招待5名）

